



津波から命を守るために

東日本大震災やインドネシア・スマトラ島沖地震では、巨大な地震の直後に発生した大津波によって、多くの尊い命が奪われました。

また、昭和35（1960）年のチリ地震では、南米チリ沖で発生した津波が22時間後に日本の太平洋沿岸に到達し、死者・行方不明者が142人に及ぶ被害を出しました。

津波の特徴を知り、日常的に避難場所や避難経路を確認しておくなど、いざというときに適切な行動を取るための備えをしておきましょう。



津波の来襲（写真提供：宮古市）

北海道の津波被害

平成5（1995）年7月に発生した北海道南西沖地震では、地震発生直後に奥尻島をはじめ北海道や東北地方の日本海沿岸などに津波が押し寄せました。地域によっては津波の高さが30メートル以上となるところもあり、震源に近い奥尻島を中心に地震や津波、火災などにより死者202人、行方不明者28人の被害が生じました。



被災直後の奥尻町（写真提供：奥尻町）

「語り告ぐ津波の教訓」

私は、十八年前、日本海側で発生した北海道南西沖地震での惨劇を思い出さずにはられないので

す。

当時、私は高校一年生で奥尻島の最南端、青苗岬に祖父母と三人で暮らしていました。

夜十時十七分、奥尻島北西沖を震源とする大地震が起りました。木造二階建ての自宅は、「ドーン！」という地鳴りと物凄い揺れで停電し倒壊寸前でした。二階にいた私は、祖父母を叫んで呼びながら真っ暗な階段を駆け降りた所、祖父がタンクの下敷きになっているのを見つけました。すぐに助け出し、玄関へと向かいました。戸が開かず、居間の窓から出た途端、沖から「ブーッ！」という凄まじい音が聞こえ、絶対に津波だと直感しました。

どこからともなく幾つもの悲鳴が響き渡る中、祖父を背負い、祖母の手を引いて避難。津波が迫ってくるのを感じながら、必死の思いで、数歩、坂を登った次の瞬間、波をかぶり、三人とも流されそうになりながらも、安全な高台に辿り着く事ができたのです。地震発生から僅か三分で押し寄せたこの大津波。なぜ、自分たちは短時間で避難できたのか。その最大の要因は、幼い内から地震津波の怖さを祖父母に教えてもらっていて、昭和五十八年の日本海中部地震で発生した津波の時に、すぐに祖父母に手を引かれて高台へ避難した記憶があり、その時と同じ道を暗闇の中、素早く落ちていて避難した事です。

奥尻町消防職員
三浦 浩 氏の講話より抜粋

※一部、分かりがな付記

豆知識 津波の言い伝え

古くから津波に襲われてきた三陸地方には、「津波てんでんこ」という言い伝えがあります。この言い伝えには、「津波が来たら、各自てんでんばらばらに高台へ逃げて自分の命を守る」という意味があります。また、津波の被害を受けた場所を伝えるため「此処より下に家を建てるな」という祖先の教えが刻まれた石碑も数多く残されています。こうした祖先からの言い伝えが今も語り継がれています。



大津波記念碑（宮古市）（写真提供：津波デジタルライブラリ委員会）

津波の特徴を知ろう！

1 津波は猛スピードで、しかも繰り返し襲ってくる！

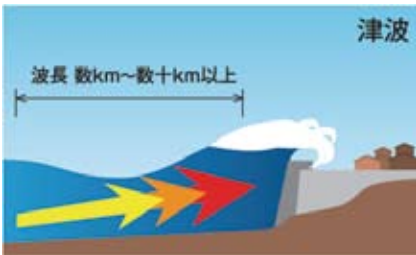


津波の速度は、水深が深いところでは速く、海岸に近づくと速度は遅くなりますが、後から来る波が重なって津波の高さは急激に高くなります。

また、津波は何度も繰り返し襲ってきます。第1波よりも、その後に来る波の方が高くなる場合があります。

(写真提供：気象庁)

2 津波は大きなエネルギーをもっている！



津波は、普通の波と異なり、海底から海面までの水が巨大な塊となって押し寄せるので、すさまじい破壊力をもっています。高さ1m程度の津波でも平均1.5t/m²の力が作用し、木造住宅を部分的に壊すほどの威力があります。

また、津波が勢いよく川をさかのぼり、堤防を越えて浸水して被害が拡大することがあります。

(写真提供：気象庁)

津波ハザードマップ

調べてみよう

地図で自宅や学校の海拔高度を調べたり、津波ハザードマップ*で危険な地域や避難場所などを確認したりしてみましょう。

*ハザードマップ

市町村などの自治体が、洪水や津波などの災害が発生した時に、住民が安全に避難できるように、被害の予想区域や程度、避難場所などを示した地図のこと。



「500年間隔地震津波ハザードマップ」
(提供：釧路市)

話し合ってみよう

津波が来たとき、あなたはどのルートで、どこに避難しますか。自宅にいるとき、買い物に出かけているときなど、様々なケースを考えてみましょう。

- ・自宅にいるとき
- ・() で買い物をしているとき
- ・() 駅にいるとき など

津波がくる前に、まず避難！

海岸の近くにいる

- 「強い大きな」揺れを感じたら
- 「ゆっくりと長く続く」揺れを感じたら
- 「急な引き波」があったら (引き波から始まるとは限りません)

**津波警報・注意報が出ていなくても
すぐに高いところへ避難しましょう！**

遠く離れた外国で発生した地震でも、日本に津波が来る場合があります。テレビやラジオの津波警報・注意報に気をつけよう！

津波警報・注意報	
大津波警報	高いところで3m超を予想
津波警報	高いところで1m超、3m以下を予想
津波注意報	高いところで0.2m以上、1m以下を予想

発行：平成23年10月
 発行者：北海道教育委員会
 問い合わせ：北海道教育庁学校教育局参事（生徒指導・学校安全）
 電話 011-231-4111（内線35-670）
 URL <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/>

シリーズ「学ん DE 防災」(高校生用)

〈地震編〉



〈風水害編〉



左のURL(ウェブ)に掲載しています。

〈協力機関〉

- ・北海道教育大学札幌校
- ・札幌管区気象台
- ・北海道高等学校PTA連合会
- ・道都大学 (イラスト提供 石田晴香)
- ・北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター
- ・北海道PTA連合会
- ・北海道総務部危機対策局危機対策課
- ・伊藤早穂